

14-3497 かはかみノ ねじろたかがや

あやにあやに さ窟 (ね) さ寐 (ね) てコソ コトにでにしか

14-3562 ありそやに おふるたまもノ

うちなびき ひとりや窟 (ぬ) らむ あをまちかねて

長歌には、「窟 (ぬる) 夜おちず」(17-3978) の事例もある。

9 筑 (25) ——

専ら固有地名を記して現れる。

14-3350 筑波 (つくば) ねノ にひぐはまよノ

きぬはあれド きみがみけしし あやにきほしも

14-3427 筑紫 (つくし) なる にほふ兎 (こ) ゆゑに

みちノくノ かとりをト女 (め) ノ ゆひしひもトク

*

万葉集の仮名主用 6 巻の短歌の漢字として一括しているが、「124 見 (1)」「46 日 (2)」のように仮名と見られるものもあり、「31 山 (3)」「27 花 (5)」「24 月 (6)」のようにまさに正訓のものもあり、「9 筑 (25)」のように地名のものもある。そのように雑多なままに、漢字は、仮名のうちに、有るか無いかの影を落として存在している。雑多なままに控えめに存在する状態は、後世の古今和歌集の伝本などと比べて、異なるどころがありはしても、総体的に違和感はない。

なお、次の下線部は、澤瀉が訓みを与えていないので、妙な扱いながら仮名 7 字として、どの仮名とは特定しないままに数えた。

14-3419 いかほせよ 奈可中吹下 おもひどろ くまコソしつト わすれせなふも

参考文献

石井久雄 (2013a) 万葉集における仮名と漢字。同志社大学, 同志社国文学 78 pp.168-157。

——— (2013b) 古今和歌集元永本の周辺における漢字。

立命館大学, 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要 7 pp.1-22。

宮島達夫・中野洋・鈴木泰・石井久雄

(1989) フロッピー版古典対照語い表および使用法。笠間書院。

……本書は増補改訂を進めていて、万葉集の用語については、宮島が基礎作業として巻ごとの出現頻度を算出している。本稿の漢字「見」の項目の記述では、その基礎作業を参照する恩恵に浴した。

いては、それぞれ出現順位1・2の漢字を含むものを掲げた。巻18については、1位「見」を含むものを掲げることはできたが、漢字の2位はこの「花」であり、漢字「山」を含む15-3687歌のように一首内に字余りがないと文字数の平均値に届かず、4位「日」を含むもので代えた。ここに漢字「花」を含む事例を示す。文字数30、漢字数1、漢字比率3.3%である。

18-4066 うノ花ノ さくつきたちぬ ほととぎす きなきトヨメヨ ふふみたりトも

漢字「花」は、文字数最少・漢字数最多として挙げた18-4074歌のうちにも見られる。そのことに関連して、漢字「花」を含む短歌は、他の漢字も含んで漢字比率が高いように感じられる、ということがある。その短歌は合計27首であるが、18-4074歌を除く26首について見ても、文字数・漢字数の範囲24-30および1-7、平均値28.0および3.7である。漢字数1というのは、漢字が「花」1字のみであるということであって、3首しかなく、いずれも文字数30、いま挙げた18-4066歌が一例である。最頻値は文字数28・漢字数4、漢字比率13.3%であり、文字数・漢字数の組み合わせでも28・4のものである。平均値に近いものも同じく、巻17・巻18に2首ずつあり、そのうちの一つずつを掲げる。

17-3963 世間〈ヨノなか〉は かずなきもノか

春花〈はるばな〉ノ ちりノまがひに しぬづきおもフば

18-4097 すめロキノ 御代さかエむト

あづまなる みちノくやまに 金〈くがね〉花さく

この漢字「花」は、巻18で出現順位2ながら頻度は7であり、仮名主用6巻のうちでの地位は、巻17で出現順位3ながら頻度15の大きさがあることに、支えられるであろう。しかも、漢字「花」の出現は、仮名主用6巻では巻17・巻18・巻20に偏る。この偏りの理由は、「124 見 (1)」が巻5に極端に少ない理由と同様に、分からない。古今和歌集高野切で繰り返し出現したことに繋がっているかと、思うばかりである。

24 月 (6) —

次の「ながつき」は、熟字訓と言うべきであろう。

15-3716 あまくもノ たゆたひくれば

九月〈ながつき〉ノ もミチノ山も うつ口ひにけり

長歌には、「五月〈さつき〉」(18-4101)「五月蠅〈さばフ〉」(5-897)といった事例も見受けられる

14 宿 (6) —

動詞「ぬ(寝)」に関係するものを漢字とする。短歌では、巻14にのみ出現する。

が、関係する漢字として「3 在 (71)」「17 君 (10)」「8 吾 (28)」「3 念 (71)」「2 思 (95)」「6 妹 (39)」「10 人 (21)」「3 恋 (71)」といったものを挙げることができる。それらに比べても、漢字「見」の出現の量は、突出している。

事例は、文字数・漢字数が巻の平均値に近いとして上に挙げたもののうちに見られる。已然形「みれ」と訓ませるものも、次のようにある。

18-4117 コソノ秋 あひ見しまにま 今日見ば おもやメづらし みやかたひと

46 日 (2) ——

この漢字「日」も、仮名主用全6巻すべてに現れる。それぞれでの順位は高いものではないが、巻17では2位である。巻18のものながら、「日」を含む短歌を、文字数・漢字数が巻の平均値に近いもの一つとして挙げた。巻17から、正訓と熟字訓とを一首に含む事例を挙げる。

17-3924 山ノかひ ソコトも見エズ をつ日も 昨日も今日も ゆきノふれゝば

なお、次の第5句は、澤瀉は「ひぐらし…」と訓み下して漢字を用いないが、

15-3655 いまよりは あきづきぬらし あしひキノ やままつかゲに 且ぐらしなきぬ
本稿では、次の第1句を踏まえて、見られるように漢字「日」を置いた。

17-3951 且晩〈ひぐら〉しノ なきぬるときは

をみなへし さきたる野辺を ゆきつつ見ブレ

31 山 (3) ——

上の2漢字「見」「日」が仮名であるかもしれないのに対して、この「山」は確実に漢字である。巻15で出現頻度20・順位2であるのが、仮名主用巻での地位の基盤であり、その巻15の短歌の一例を、文字数・漢字数が巻の平均値に近いものとして挙げた。

29 兎 (4) ——

巻14の短歌における出現頻度で、この「兎」は漢字「見」を凌いで首位に立っている。その短歌の一例は、文字数・漢字数が巻の平均値に近いものとして挙げた。名詞「こ(子)」に明瞭に対応するものを漢字とし、次のような固有人名・地名らしいものは仮名として扱う。

14-3384 かづしかノ ままノてこな〈手兎奈〉を

まコトかも われにヨすトふ ままノてこな〈豆胡奈〉を

14-3442 あづまちノ てこ〈手兎〉ノよびさか

こエがねて やまにかねむも やドリはなしに

27 花 (5) ——

嚮に、文字数・漢字数が巻の平均値に近い短歌の例を並べたときに、巻14・巻15につ

4 漢字個別について

短歌に出現した漢字個別について、紙幅の範囲で注記する。おおむね、仮名主用全6巻の短歌における出現頻度の順序で、すなわち前ページの表に従って、取り上げる。出現頻度最大の漢字「見」を、頻度124と順位1とを添えて「124 見 (1)」と表し、同様に「46 日 (2)」「27 花 (5)」のように表すこととする。その3字、および下位に埋もれているが「4世 (60)」「1中 (150)」は、石井 (2013b) の、古今和歌集高野切の和歌における僅かな漢字「花・見・日・世・中」を思い出させる。

124 見 (1) —

この漢字「見」は、巻5短歌では出現頻度1であるが、巻14短歌で出現順位2、他の巻の短歌ですべて順位1であり、長歌および旋頭歌の頻度合計としても順位1である。頻度は、2位のそれを大きく引き離している。次の()内はそれぞれの漢字延べに対する比率を示し、「見」の短歌における頻度の合計124は、短歌の漢字延べ1,132の10.9…%に当たり、長歌および旋頭歌での頻度の合計50は、長歌および旋頭歌の漢字延べ1,103=1,091+12の4.5…%に当たるということである。長歌での順位2は「大」である。

短歌合計 124 (10.9%) 長歌合計 50 (4.5%) 全歌合計 174 (7.7%)

2位「日」 46 (4.0%) 「大」 34 (3.0%) 「日」 72 (3.2%)

仮名のうちに存在する漢字として、「見」は屹立していると言ってよい。

ただし、巻5における頻度の小ささは、気になるところである。動詞「見る」など関係する用語が、他の字母つまりは仮名で記されているのであって、前稿でも一言したが、その状態になっている理由は分からない。石井 (2013b) の、古今和歌集伝藤原公任筆本の状態は、和歌でも詞書などでも全く漢字「見」が現れないというものであって、何かを考えよと訴え掛けているように感じられる。

漢字の出現頻度の多少を決定するのは、仮名との関係のみでなく、用語との関係もある。もし、漢字「見」に関係する用語が、用語そのものとしてもその出現頻度としても少なければ、漢字も出現しようがない。しかし、当の「見」は、万葉集各巻においてよく出現しうる環境が整っていると言うべく、単純動詞「見る」が、万葉集各巻で高頻度・高順位にあつて、宮島ほか (1989) によれば、全体でも首位に肉迫する2位であり、また単純動詞「見ゆ」がやはり全巻にわたって出現して全体で29位である。

なお、万葉集で出現頻度が大きい用語は、「あり」「見る」「君」「す (為)」「わが (吾)」「思ふ」「無し」「いも (妹)」「人」「恋ふ」のように並ぶ。どのように記しやすいかといった観点がありうる。仮名主用6巻の短歌での出現とは並行しないかもしれない

前稿に記した巻5・巻20の分をこの表に合算し、仮名主用全6巻において短歌に出現した漢字を、合計の出現頻度で排列して一覧するならば、次のようである。漢字の異なりは294字である。

124	見	(1字)
46	日	(1字)
31	山	(1字)
29	児	(1字)
27	花	(1字)
24	月野	(2字)
20	秋	(1字)
18	大	(1字)
17	君江	(2字)
16	手	(1字)
15	船目	(2字)
14	宿	(1字)
13	風	(1字)
12	海鳴	(2字)
11	名木	(2字)
10	女人道辺	(4字)
9	瀬筑馬	(3字)
8	原吾今時春波	(6字)
7	宮雪年白葉	(5字)
6	火間橘身水鳥津田妹夜	(10字)
5	一家玉御根出緒松真相来	(11字)
4	皇子情信世千代天在師所	(11字)
3	衣鷺羽雲河我京香在師所渚新蔵長南難汝念不父武恋路	(24字)
2	雨浦苑屋音下霞梶居金戸胡行国昨桜始思紫自実珠種 樹上並穂母命模立草藻袖湍 聞並穂母命模立草藻袖湍	(55字)
1	葦久枝速未纏 去氏打梅妙蘆 伊魚待泊眠雖 意鏡芝替宅八霧雖 異極取駿楯谷髮問 井芹取駿楯谷髮問 印銀初小歎淡中百雄 隱九苦沼乘心通富落 云形沼乘心通富落 遠形沼乘心通富落 往經乞公幸荒高坐是湯遍歷 何乞公幸荒高坐是湯遍歷 歌公幸荒高坐是湯遍歷 過幸荒高坐是湯遍歷 画荒高坐是湯遍歷 解高坐是湯遍歷 刈坐是湯遍歷 敢菜際參婦貴起 雁際參婦貴起 忌參婦貴起 雁際參婦貴起 敢菜際參婦貴起 刈坐是湯遍歷 解高坐是湯遍歷 画荒高坐是湯遍歷 過幸荒高坐是湯遍歷 歌公幸荒高坐是湯遍歷 何乞公幸荒高坐是湯遍歷 往經乞公幸荒高坐是湯遍歷 云形沼乘心通富落 遠形沼乘心通富落 隱九苦沼乘心通富落 印銀初小歎淡中百雄 井芹取駿楯谷髮問 異極取駿楯谷髮問 意鏡芝替宅八霧雖 伊魚待泊眠雖 去氏打梅妙蘆 葦久枝速未纏	(145字)

万葉集における仮名と漢字(2)

長歌・旋頭歌を含めた、仮名主用全6巻の和歌全体としては、漢字の異なりは495字となる。短歌に出現しながら長歌に出現しない「根(短歌での出現頻度5)」「松(同じく5)」など111字、長歌にのみ出現する「王(長歌での出現頻度13)」「五(同じく6)」など201字、といった様相もあり、もとより短歌と長歌とでの出現頻度の大小の違いもあるが、今回は短歌を中心にとどめておきたい。

万葉集 卷14・15・17・18 漢字一覧

(つづき)

万葉集における仮名と漢字(2)

	万葉集				漢字一覧				(つづき)			
	卷14 短歌	卷15 短長	卷17 短長	卷18 短長	卷14 短歌	卷15 短長	卷17 短長	卷18 短長	卷14 短歌	卷15 短長	卷17 短長	卷18 短長
通	-	-	1	-	彼	-	-	-	模	2	-	-
釣	-	-	1	-	尾	-	I	1	木	6	2	-
庭	-	I	2	I	美	-	-	-	目	4	3	-
弟	-	-	-	I	紐	-	-	1	問	-	-	1
天	-	I	2	-	百	-	-	1	門	-	1	-
伝	-	-	1	-	不	-	-	1	夜	1	3	-
田	4	1	-	1	付	1	-	-	野	9	3	I
度	-	-	1	-	夫	-	-	1	矢	-	-	1
冬	-	-	-	-	敷	-	-	-	柳	-	-	1
刀	-	-	-	-	父	-	-	-	有	-	-	-
島	-	2	-	2	負	-	-	-	遊	-	-	1
東	-	-	1	-	附	-	-	1	雄	-	-	1
湯	1	-	-	-	撫	-	-	-	葉	4	3	-
藤	-	1	-	1	武	3	-	-	養	-	-	I
豆	-	-	-	-	風	-	4	-	羅	-	1	-
童	-	-	-	-	服	-	-	1	来	1	-	-
道	2	4	-	I	物	-	-	1	落	-	-	1
内	-	-	1	-	聞	-	-	1	里	-	-	1
南	-	1	-	-	平	-	-	I	立	-	-	1
汝	3	-	-	-	並	-	-	2	流	-	-	-
二	-	-	1	I	別	-	-	I	獵	-	-	1
日	6	14	3	16	辺	-	4	2	鈴	-	-	-
如	-	-	1	-	保	-	-	-	零	-	-	1
年	-	-	1	I	穗	1	-	1	靈	-	-	-
念	-	-	3	3	暮	-	-	2	歷	-	-	1
之	-	-	1	-	母	-	-	-	恋	-	1	-
濃	3	-	1	-	宝	-	-	-	路	-	-	2
波	7	-	-	-	放	-	-	I	露	-	-	I
馬	3	2	-	2	方	-	-	-	浪	-	-	2
背	-	-	-	I	豊	-	-	1	老	-	-	-
梅	-	-	1	-	妹	-	5	-	哭	1	-	-
伯	-	-	-	-	枕	-	-	1	寐	1	-	-
白	-	1	-	3	沫	-	-	-	榜	-	-	1
舶	-	1	-	-	万	-	-	-	湍	1	-	-
莫	2	-	-	-	未	-	-	1	璞	-	-	I
八	-	-	-	-	眠	1	-	-	雖	-	-	-
髮	-	-	1	I	名	3	2	-	霍	-	-	1
伴	-	2	-	-	命	-	-	1	鶯	-	-	2
晚	-	-	1	-	明	-	-	I	鶉	-	-	1
磐	-	-	-	-	鳴	1	1	-	々	-	1	-
	短歌	短長	短長	短長	短歌	短長	短長	短長	短歌	短長	短長	短長
	卷14	卷15	卷17	卷18	卷14	卷15	卷17	卷18	卷14	卷15	卷17	卷18

万葉集 卷14・15・17・18 漢字一覧

(つづき)

卷14 卷15 卷17 卷18				卷14 卷15 卷17 卷18				卷14 卷15 卷17 卷18			
短歌	短	長	長	短歌	短	長	長	短歌	短	長	長
妻	-	-	1	洲	-	-	1	青	-	1	2
菜	1	-	1	秋	-	5	4	赤	-	-	1
際	-	-	1	十	-	-	-	雪	-	-	5
在	-	-	1	宿	14	1	1	絶	-	1	-
坂	-	-	1	出	-	2	1	蝉	-	1	-
咲	-	-	1	春	-	-	5	千	1	-	-
昨	-	-	2	駿	1	-	-	川	-	2	-
桜	-	-	1	楯	-	-	1	泉	-	-	2
三	-	-	1	所	-	1	2	船	-	6	2
参	-	-	1	渚	2	1	-	善	-	-	-
山	-	20	1	緒	2	-	1	祖	-	-	-
使	-	-	3	女	2	6	1	双	-	-	-
嗣	-	-	-	小	-	1	1	早	-	1	-
四	-	-	-	床	-	-	-	相	2	-	2
子	-	1	1	松	-	2	2	草	-	-	1
屍	-	-	-	沼	1	-	-	藻	-	1	-
師	-	2	1	消	-	-	-	霜	-	-	1
思	-	-	1	照	-	-	-	藏	3	-	-
指	-	-	1	裳	-	-	1	袖	-	1	-
枝	-	-	1	上	-	-	1	其	-	1	-
死	-	-	-	乘	-	1	1	孫	-	-	-
氏	-	-	1	常	-	-	2	多	1	-	-
紫	1	1	-	情	-	1	2	对	1	1	-
賜	-	-	-	食	-	-	-	待	-	-	1
事	-	-	-	信	3	-	1	代	-	-	2
児	25	-	1	心	-	-	-	大	-	6	5
時	-	2	3	新	-	1	1	宅	-	-	1
治	-	-	-	真	2	3	1	谷	-	-	1
蒔	-	1	-	神	-	1	-	誰	-	1	-
辞	-	-	-	身	1	-	-	丹	-	-	1
実	1	-	-	人	-	3	1	淡	-	-	1
芝	1	-	-	吹	-	-	1	地	-	-	1
射	-	-	-	水	2	-	1	筑	8	1	-
社	-	-	1	世	-	-	1	中	1	-	-
主	-	-	-	瀬	2	-	5	駐	-	-	-
取	-	-	1	是	-	-	1	朝	-	-	1
守	-	-	-	成	-	-	-	調	-	-	-
手	-	-	-	栖	1	-	-	鳥	-	1	2
珠	3	-	2	盛	-	-	1	朕	-	-	-
種	-	1	-	逝	-	-	-	津	1	2	1
短歌	短	長	長	短歌	短	長	長	短歌	短	長	長
卷14	卷15	卷17	卷18	卷14	卷15	卷17	卷18	卷14	卷15	卷17	卷18

万葉集における仮名と漢字(2)

3 漢字の一覧

漢字を JIS コードで排列して一覧する。巻ごとに短歌と長歌とに分け、旋頭歌は長歌に含める。短歌での出現頻度を立体の数字により、長歌を斜体による。

万葉集における仮名と漢字(2)

万葉集		卷14・15・17・18				漢字一覧				数值は出現頻度、短歌で立体、長歌で斜体														
		卷14		卷15		卷17		卷18		卷14		卷15		卷17		卷18								
		短歌	短	長	短	長	短	長	短	長	短歌	短	長	短	長	短	長							
葦	-	-	-	1	-	-	1	花	-	-	1	15	5	7	6	形	-	-	-	1	-	-		
梓	-	-	-	-	-	-	1	菓	-	-	-	-	-	-	1	経	-	-	-	-	1	1	-	
伊	-	-	-	1	-	-	-	過	-	1	-	-	2	-	-	継	-	-	-	-	-	-	1	
意	-	-	-	1	-	-	-	我	-	-	-	1	-	1	-	鶏	-	-	-	-	-	-	1	
異	-	1	-	-	2	-	-	芽	-	-	-	-	1	-	-	月	-	12	2	7	1	1	6	
衣	-	-	-	2	-	-	-	海	-	3	-	6	1	-	1	劍	-	-	-	-	-	-	1	
井	1	-	-	-	-	-	-	開	-	-	-	-	-	-	1	見	20	33	6	28	23	25	10	
一	-	4	-	-	-	-	1	梶	-	-	-	1	-	-	-	遣	-	-	-	-	1	-	-	
溢	-	-	-	-	-	-	1	且	-	-	-	-	-	-	1	原	-	3	-	2	-	-	1	
印	-	1	-	-	-	-	-	官	-	-	-	-	-	-	2	言	-	-	-	-	1	-	1	
隱	-	-	-	-	1	-	-	間	-	-	1	3	3	-	-	戸	2	-	-	-	-	-	1	
羽	-	2	-	-	-	-	-	関	-	-	-	-	1	-	-	胡	1	-	-	-	-	-	1	
雨	-	-	-	2	-	-	1	眼	-	-	-	-	1	-	-	五	-	-	-	-	-	-	4	
鵜	-	-	-	-	1	-	-	雁	-	-	-	1	-	-	-	吾	2	-	-	3	4	1	1	
浦	-	2	-	-	-	-	-	願	-	-	-	-	-	-	1	御	-	2	-	1	-	1	14	
云	-	-	-	-	-	1	-	忌	-	1	-	-	-	-	-	乞	-	-	-	1	-	-	-	
雲	-	-	-	2	1	-	-	貴	-	-	-	1	-	-	1	公	-	-	-	1	1	-	-	
益	-	-	-	-	1	-	1	起	-	-	-	1	-	-	-	好	-	-	-	-	1	-	-	
越	-	-	-	-	1	-	-	橘	-	-	-	4	-	2	1	幸	-	1	-	-	-	-	-	
縁	-	-	-	-	1	-	-	久	-	-	-	1	-	-	-	更	-	-	-	-	-	-	1	
苑	-	-	-	2	-	-	-	宮	-	2	-	2	-	-	-	江	2	3	-	1	2	4	1	
遠	-	-	-	-	-	-	2	弓	-	-	-	-	-	-	1	皇	-	-	-	1	-	3	4	
往	-	-	-	-	1	-	1	旧	-	-	-	-	1	-	-	荒	-	-	-	1	1	-	-	
王	-	-	-	-	4	-	3	去	-	-	-	-	1	-	-	行	-	-	-	-	-	-	2	
黄	-	-	-	-	1	-	-	居	-	-	-	2	1	-	2	香	-	-	-	2	-	-	-	
屋	1	1	-	-	1	-	1	魚	-	-	-	1	-	-	-	高	-	-	-	-	1	-	1	
音	-	-	-	1	1	-	-	京	-	2	-	1	-	-	-	国	-	-	1	-	-	-	5	
下	-	1	-	1	-	-	1	橋	-	-	-	-	2	-	-	黒	-	-	-	-	2	-	-	
何	-	-	-	1	-	-	1	鏡	-	-	-	1	1	-	1	此	-	-	-	-	1	-	3	
夏	-	-	-	-	-	-	2	玉	-	1	-	-	-	1	1	今	-	-	1	4	2	3	1	
家	-	-	-	2	1	1	-	近	-	-	-	-	1	-	-	根	3	-	-	-	-	-	-	
歌	-	-	-	1	-	-	-	金	-	-	-	-	-	1	1	佐	-	-	-	-	-	-	1	
河	1	1	-	1	5	-	4	九	-	1	-	-	-	-	-	坐	-	-	-	-	-	-	1	
火	-	3	-	1	1	2	-	君	-	14	2	2	1	1	2	座	-	-	-	-	-	-	1	
	短歌	短	長	短	長	短	長		短歌	短	長	短	長	短	長		短歌	短	長	短	長	短	長	
	卷14	卷15	卷17	卷18		卷14	卷15	卷17	卷18		卷14	卷15	卷17	卷18		卷14	卷15	卷17	卷18		卷14	卷15	卷17	卷18

巻5および巻20を含む仮名主用6巻の全体としては、次のようである。短歌・長歌・旋頭歌の合計を斜体で示す。

万葉集における仮名と漢字(2)

仮名主用6巻	全体	短歌	長歌	旋頭歌
延べ文字	<i>41377</i>	29950	11276	151
漢字	<i>2235</i>	1132	1091	12
漢字比率	<i>5.4</i>	3.7	9.6	7.9
歌数	<i>1025</i>	976	45	4
一首文字数		30.6	250.5	37.7
一首漢字数		1.1	24.2	3.0

短歌における漢字の比率は、巻20を最小として、各巻、おおむね、この仮名主用巻全体の比率3.7%より小さいところにある。仮名主用巻全体の数値を押し上げているのは、巻17である。巻17は、次の表に了解されるように、実は一首一首に漢字をよく分散させている。次の表は、文字数と漢字数との関係を示す。漢字を含まずに表で漢字0となっているものが、巻14では122首で半数以上である(0.530...=122首÷230首)のに、巻17では30首で四半分に満たない(0.236...=30首÷127首)、といったことが知られる。

巻14	漢字	0	1	2	3	4	5
文字	<i>230</i>	<i>122</i>	<i>53</i>	<i>38</i>	<i>11</i>	<i>5</i>	<i>1</i>
34	<i>1</i>	1	-	-	-	-	-
33	<i>8</i>	3	2	2	1	-	-
32	<i>45</i>	24	12	6	3	-	-
31	<i>161</i>	93	39	23	5	1	-
30	<i>14</i>	1	-	7	2	3	1
29	<i>1</i>	-	-	-	-	1	-

巻17	漢字	0	1	2	3	4	5	6	7
文字	<i>127</i>	<i>30</i>	<i>22</i>	<i>17</i>	<i>12</i>	<i>17</i>	<i>15</i>	<i>7</i>	<i>7</i>
33	<i>3</i>	2	1	-	-	-	-	-	-
32	<i>24</i>	14	5	5	-	-	-	-	-
31	<i>29</i>	14	11	3	1	-	-	-	-
30	<i>11</i>	-	3	1	2	1	4	-	-
29	<i>17</i>	-	1	4	5	4	1	-	2
28	<i>19</i>	-	1	2	1	7	4	2	2
27	<i>14</i>	-	-	2	2	2	3	4	1
26	<i>5</i>	-	-	-	1	1	2	1	-
25	<i>2</i>	-	-	-	-	-	1	-	1
24	<i>3</i>	-	-	-	-	2	-	-	1

巻15	漢字	0	1	2	3	4	5
文字	<i>200</i>	<i>83</i>	<i>50</i>	<i>32</i>	<i>20</i>	<i>11</i>	<i>4</i>
33	<i>12</i>	6	5	1	-	-	-
32	<i>42</i>	30	8	3	1	-	-
31	<i>78</i>	47	20	9	-	2	-
30	<i>38</i>	-	17	11	6	3	1
29	<i>20</i>	-	-	7	8	4	1
28	<i>7</i>	-	-	-	5	1	1
27	<i>3</i>	-	-	1	-	1	1

巻18	漢字	0	1	2	3	4	5	10
文字	<i>97</i>	<i>49</i>	<i>24</i>	<i>9</i>	<i>9</i>	<i>3</i>	<i>2</i>	<i>1</i>
33	<i>9</i>	7	2	-	-	-	-	-
32	<i>24</i>	17	5	2	-	-	-	-
31	<i>45</i>	25	14	4	2	-	-	-
30	<i>5</i>	-	2	2	1	-	-	-
29	<i>8</i>	-	-	3	3	1	1	-
28	<i>4</i>	-	1	-	1	2	-	-
26	<i>1</i>	-	-	-	-	-	1	-
21	<i>1</i>	-	-	-	-	-	-	1

2 漢字の比率

文字、およびそのうちの漢字について、総量は次のようである。短歌と長歌とは、隔たりがあると巻5および巻20を前稿で見て知っているのので、ここでは分け、参考として巻5および巻20をも示す。短歌の巻14のところを読むと、

短歌を記して用いられた文字の延べは7,178字、そのうちで漢字は187字、

延べにおける漢字の比率は $2.6\cdots\% = 187 \div 7,178$ 字、漢字の異なりは60字である。

短歌数230首であって、一首当たりの

文字数は29字以上34字以下の範囲にあり、平均 $31.2\cdots$ 字 $= 7,178 \div 230$ 首、

漢字数は0字以上5字以下の範囲にあって、平均 $0.8\cdots$ 字 $= 187 \div 230$ 首である、

となる。数値の下位は切り捨てる。長歌は巻14になく、巻15および巻17に見える旋頭歌は、長歌の右に添える。巻ごとの全体は意味がないかもしれないが、一首当たりの文字数・漢字数の他を示す。

短歌———	巻5	巻14	巻15	巻17	巻18	巻20		
延べ 文字	3152	7178	6155	3751	3001	6713		
漢字	115	187	238	326	101	165		
漢字比率	3.6	2.6	3.8	8.6	3.3	2.4		
異なり漢字	91	60	79	159	47	76		
歌数	104	230	200	127	97	218		
一首文字数	18-33	29-34	27-33	24-33	21-33	24-33		
平均	30.3	31.2	30.7	29.5	30.9	30.7		
一首漢字数	0-12	0-5	0-5	0-7	0-10	0-6		
平均	1.1	0.8	1.1	2.5	1.0	0.7		
長歌———	巻5		巻15	巻17	巻18	巻20	巻15	巻17
延べ 文字	2208		999	3941	2381	1747	117	34
漢字	388		37	234	310	122	3	9
漢字比率	17.5		3.7	5.9	13.0	6.9	2.5	26.4
異なり漢字	225		28	126	161	68	2	9
歌数	10		5	14	10	6	3	1
一首文字数	55-393		81-426	74-598	146-533	91-450	38-40	34
平均	220.8		199.8	281.5	238.1	291.1	39.0	34.0
一首漢字数	0-107		1-13	1-49	8-134	0-32	0-2	9
平均	38.8		7.4	16.7	31.0	20.3	1.0	9.0
巻全体———	巻5	巻14	巻15	巻17	巻18	巻20		
延べ 文字	5360	7178	7271	7726	5382	8460		
漢字	503	187	278	569	411	287		
漢字比率	9.3	2.6	3.8	7.3	7.6	3.3		
異なり漢字	268	60	93	218	177	119		
歌数	114	230	208	142	107	224		

万葉集における仮名と漢字（2）

石 井 久 雄

1 問題

本誌78号（2013年3月）所載「万葉集における仮名と漢字」において、万葉集巻5および巻20の和歌本体に漢字がどのように存在しているか、その様相の定量的概要を見た。漢字の比率は、短歌では両巻が3%を挟む程度であるが、長歌で大きく隔たり、巻5全体として9.3%、巻20で3.3%である。漢字の異なりも、巻5長歌で多く、巻5全体として268、巻20全体で119である。巻5および巻20は、仮名主用6巻の両端であると予想して取り上げたが、実際にはさほど単純でもない。巻14・巻15および巻17・巻18について漢字の様相を見ることが、本稿の主題である。

前稿に引き続いて本稿に万葉集の仮名と言うのは、一字で一拍に対応する音仮名ないし訓仮名に限定する。その他を漢字と言い、字音による「過所〈くわん〉」（15-3754）、正訓による「秋〈あき〉」（15-3581）、義訓による「京師〈みやこ〉」（15-3699）や、訓読「雖人云〈ひとはいふド〉」（18-4074）などのものがある。「見〈み〉」など、仮名とも一拍の正訓とも理解できるものは、漢字とする。何を仮名・漢字と見るかという問題は、本稿の主題の基礎にある問題であるが、以下でも適宜触れるにとどめる。

万葉集は、漢字本文・訓み下しとも、澤瀉久孝『萬葉集注釋』全20巻（1957-1968年、中央公論社）、およびその『本文篇』（1970年）・『索引篇』（1977年）による。本稿で扱う和歌本体というのは、詞書・左注などを含まないとともに、「一云」などで示されるものも含まない。

挙例に当たっては、仮名は平仮名で記し、ただし、乙類音に対応すると考えられるものは片仮名により、かつハ行・バ行エ列を「フ・ブ」に置き換え、またヤ行エ列を「エ」とする。清音・濁音への対応を区別する。仮名の反復符号は、対応の甲類音・乙類音を顧慮せず、「ゝ」「ゞ」とする。漢字は漢字そのままとし、反復は「々」とする。所在は、（ ）内に、巻序-国歌大観番号で示す。必要に応じて、漢字の訓み、ないし仮名の原文を、〈 〉に括る。すぐ上の漢字の事例もこの方針に従っている。